

令和4年度第3回日進市総合戦略推進委員会 議事録

日 時 令和5年3月28日（火） 午前10時から午前11時30分まで
 場 所 日進市役所南庁舎2階 第5会議室
 出 席 者 鵜飼宏成、高木伸治、水嶋義弘、亀倉正彦、市川耕一、松本崇平、三隅晋吾、久田孝志、堀修、小金澤衣里（敬称略）
 事 務 局 萩野一志（総合政策部長）、岩瀬雅哉（同部調整監）、小出誠二（同部次長兼企画政策課長）、西口和宏（同課課長補佐兼市政戦略係係長）、志水崇法（同課同係主任）、佐藤成俊（同課同係主事）
 傍聴の可否 可
 傍聴の有無 無
 次 第 1 開会
 2 議題
 第2期日進市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る主な事業及び指標の検証について
 3 閉会

配付資料

- 資料1 指標設定の考え方について
- 資料2 指摘事項対応表
- 資料3 第2期日進市まち・ひと・しごと創生総合戦略指標検証表
- 資料4 第2期日進市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 修正案
- 資料5 第2期日進市まち・ひと・しごと創生総合戦略抜粋
- 資料6 日進市企業版ふるさと納税地方創生基金条例

	1 開会
	2 議題
委 員 長	議題第2期日進市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る主な事業及び指標の検証について、説明をお願いします。
説 明 者	（資料1、2、3、4、5に基づき、事務局から説明）
委 員 長	まず、今の報告に対して質問事項があるかどうかを確認し、内容的な理解を深め、その後ご意見などをいただきたいと思います。 それでは、内容についてご質問をお願いします。
委 員 員	かなり整備されてきたというのは実感です。ただし、何点か気になるところがあります。 一つは、課題がよく見えないことです。何が問題になっているのか、目標設定に対する KPI の設定について、かなり腹に落ちてきている気もするのですが、市の中での課題の共有についてが、よく見えてこない。こういう問題があるからこうしたい、こうすることによって市民の生活をよくしますという、そのあたりのストーリー性が見えない。課題に対する対策方法について、みんな

	<p>が腹に落とさないとその力はかけ合わせにならないと思います。現状の問題点は何なのか、それに対する目標設定がこうですねという腹に落ちる施策が必要ですが、そこが読み取れないというのが一点です。</p> <p>それから2点目、KPIの設定です。かなり良くなったとは思いますが、KPI値の設定例で、基本目標の1, 2, 3は、かなり市役所の中で議論されているなというのはよくわかるし、逆に言えば一市民として非常に嬉しいと思います。ただし、よい例のところで、公共交通利用者数〇人というのが、なぜKPIになりうるのでしょうか。せっかく「指標とは」というところに「直接的」という良い文言が書かれていますが、これは指標にはならない、満足度と同じものです。その下の人口カバー率、これは施策としてはどういうルートでやればいいのかですね。戦略施策とリンクするわけです。しかし、停留所から何人乗ったかというのはどうしようもないわけです。それよりも重要なのは、例えば私が住んでいるところから市役所へ行く場合、行きは1時間以内、帰りは4時間時間かかるのか、そういうところのギャップをどうするかとかいわゆる戦略施策に折り込むような内容を書かなきゃいけないところで、いい例の中に悪い例が紛れ込んでいます。</p> <p>そういう点で言うと、まだ腹に落とさきれていないと思うのですが、いかがでしょうか、という私の意見感想です。</p>
委員長	ありがとうございます。より良くしていくためのご提案だったと思います。他にご質問はございますか。
委員	質問です。資料1の7ページ目の、「直接性」という言葉が気になりました。この「直接性」というのが何を意味しているのか教えてください。
事務局	該当する事業とあまり関係のないものを指標として設定するようなことは不適切であり、関係性の深い指標を設定してほしいという意味で、「直接性」という表現を使用しています。
委員	自ら施策を展開して、結果が評価できるという意味で「直接性」という言葉を理解したのですが、そうではないのですか。
事務局	結果の評価についても、PDCAサイクルの一つになりますので、結果の評価という意味も含まれております。
委員長	<p>それでは、資料2について何かご意見コメントなどございますか。</p> <p>既に他の委員の方からKPI指標を考える上での大元的前提である課題の設定の仕方や、その対策への展開の仕方について、なかなか見えないというご指摘がありました。市の課題を精査するというところで1枚スライドがありますので、考えるというプロセスは明示されているのですが、この第6次総合計画に関連する構造課題、なぜそれが課題であったのか、その対策の妥当性はあるのかという部分についてこれだけでは十分ではないというご指摘なのかもしれません。</p> <p>第6次の総合計画をどのように読むかということが、職員の研修を兼ねる、</p>

	<p>あるいは意思疎通、意思の統一を図るということであるなら、計画自体の読み方と課題の捉え方といったようなところを加えると、この資料が1人歩きしても、多くの職員の方々が統一した考えと行動に移せるのかなというふうに思います。非常に分厚い資料なので、職員でも時間がある時にという考え方がされていたと思いますので、そうなるとその課題の抽出やその課題の構造化とか対策への展開の仕方は意識が向かない可能性があります。</p> <p>他に、資料1と2についてご提案やご意見をお願いいたします。</p>
委 員	<p>資料作りも含めて、若手の方にも課題認識をしてもらうということではできているかなと思っています。その中で5ページ目のところで、私も色々な自治体を回らせていただく中で、先ほどの話で出ていた、DX化だとかスリム化っていうのを進めていかないといけないが、一方で昔からの仕事もやめられない部分があって、なかなか進んでいかないとすることを課題とされている自治体が非常に多いと感じています。</p> <p>その中で、日進市としての取り組み状況というのは全体感として話が進んでいるのかという点と、資料に書かれているような、若手が周りの人に聞くとか、周りに聞きながら、いろいろコミュニケーションをとるという土壌自体ができていくかという点をお聞かせください。</p>
事 務 局	<p>まず1点目について、本市もDX化に力を入れて取り組んでおり、特に令和4年度からはRPAを進めており、取り組んだ事業の中には作業時間が大幅に削減しているものもあります。</p> <p>一方、人でしかできない仕事というのもございますので、取捨選択しながらDX化できることを優先的に進めていく必要があるものと考えております。</p> <p>次に、2点目について、組織体制としてはボトムアップが理想であると考えていますが、若手職員から上司に具体的な事業提案や課題提示などができている職員は一部おりますが、まだ全体的には少ない印象です。</p> <p>それらを打開する策として、普段からコミュニケーションが取れており、気軽に提案ができ、上司が意見を吸い上げるといった土壌を作り上げることが必要なのではないかと意図で資料にも記載しております。</p>
委 員 長	<p>ありがとうございます。</p> <p>日進市では、前回の第5期の総合計画の運用の見直しについては、横断的に若手がいろいろと議論をしていくという流れがあったと思います。そうなりますと、まだ若い世代は直接その計画に携わっていないけれども、これからの時代を担っていく若手の職員から見てどうかという評価と、対策提案というのは今までやられてきたということになりますので、先ほどの委員の言葉を借りれば、課題というものが本当に適切だったのかということであったり、見直しをどうするかであったり、新しい施策であったり、従来の施策で十分でなければどう工夫していくか考えることが既に土壌として出来上がりつつあると思いますので、事務局の発言はさらにそれを展開していくという流れで</p>

	<p>あろうと思っています。</p> <p>ほかにご意見はございますか。</p>
委 員	<p>質問ですが、今の段階で、課ごとに立てた KPI などを精査するという時間が設けられているのでしょうか。</p>
事 務 局	<p>計画に盛り込まれた KPI については、計画を読み込み、課内で情報共有する時間は、あまり取れていないのではないかと考えています。計画の見直しや計画策定の時期に KPI についての話し合いがされているのが現状ではないかと考えております。</p>
委 員	<p>ちょっと少ないかなという気がしたのですけどいかがでしょうか。</p>
事 務 局	<p>情報共有できる時間が少ないことが課題であると捉えておりますので、この資料を若手職員が読み、計画を読むことで、わからない部分が必ず出てきますので、それらを上司の方に確認して、KPI を練るといった時間の共有が出来れば良いと考えております。</p>
委 員 長	<p>ありがとうございます。他にご質問はございますか。</p>
委 員	<p>KPI 指標の目標設定というのは非常にわかりやすく具体的に書かれていて非常にいい話だと思います。ただ、一番の目的は目標を作ることではなく、それを実践して行って、どう次の第 7 次に繋げていくかということであると思っていますので、最後から 2 ページ目のまとめのところで、もう少し PDCA をどう回していくか、どのようにチェックをして、次の第 7 次にこうして繋げていきますよ、という先を見据えたところを皆さん意識してください、というイメージでやられた方が、よりわかりやすいのかなと思いました。</p>
委 員 長	<p>おそらく会議の回数よりも、何をどのように改善し、変えていくのかという PDCA のサイクルが、どのタイミングで行われるかという点や、組織の文化として PDCA サイクルを回すということがあるかという点が、非常に大きなポイントであって、このように盛り込むことは、より積極的な姿勢で取り組むということであろうと思います。文化がなかったら、これは言葉だけで終わってしまいかねないところをどう変えていこうか、多分 2 人の委員からのご発言はそういったようなことではないかと思います。今日の時点では答えがあるという話ではないと思います。事務局、いかがですか。</p>
事 務 局	<p>計画作りなどに携わった職員は、PDCA サイクルの動きが結果として市民に最終的な市民サービスの向上に繋がるということを理解しているのですが、全ての職員が業務を理解して自分が今どの部分を担い、それがどのように反映されるのかということまで理解して仕事をしているかということ、まだまだ弱いと思っています。また、現在は指標を検討する機会が計画の見直しのタイミングであるという話がありましたが、一応毎年 1 回 KPI の実施状況みたいな調査をやっているのですが、本来であれば、その時期に各部署において KPI がなぜ設定されこれはどういう目標かというような情報を共有して、どういうことに取り組んでいこうという話し合いができれば浸透していくのですが、</p>

	<p>実際は係長などが、数字だけを報告しておしまいになるというのが現状なので、一応最低限の認識はしているけど、まだまだ弱い状況なのかなと思っています。</p> <p>逆に言うと、こういう資料を示して直接計画に関わらない職員でも、どのように行政が動いているかというのを理解してもらうための一つのアイテムとして、意識の浸透を図っていく必要があると思います。</p> <p>先ほども DX という話があったのですが、市民サービスにつながる DX というのは比較的予算を通しやすく、進められていきますが、職員のみが恩恵を受ける DX というのは、職員だけが楽をするだけであるというようなところがあって、先送りになりがちなところがあります。そうではないというところを、KPI を実現させるため、職員に話し合う時間を作ってもらうためにも、私たち役職者がやっていかなければならないと思っておりますので、ご意見をいただいて、前に進めるようにやっていきたいと思っております。</p>
委 員	<p>今の議論に関連したことですが、例えば AI 議事録、これは何が問題点で、これを導入することによってどれだけの効果が出るのか、例えば議事録というのは、何が一番ポイントだったのかくらいで人間は終わってしまうのですよね。</p> <p>やっぱり速記録は確かに良い機械が必要ですが、これによってどんなメリットがあるのか、どれだけ工数が浮いて、それをどうやって次の仕事に導入しようとしているのか、そこはよく見えません。</p>
事 務 局	<p>具議事録の作成時間として、大体半日以上かかっております。それを、AI 議事録を使うことで半分ぐらいに短縮できるのではないかと考えております。窓口業務の多い部署では、議事録を作成しようとしても、自分の思うとおりに作業ができません。そのため、時間外になってから取り組むことが多く、そのような部署では時間外の削減が期待できるのではないかと考えています。AI 議事録を使用する場合は、職員が少し編集するような作業になりますので、その分、空いた時間に課内の情報共有や事業の検討など、職員にしかできない時間に使ってほしいと考えております。</p>
委 員	<p>率直な印象ですが、2 時間かけて議事録を作ること自体がナンセンスであるし、逆に言えば、AI でやったときに、例えば 2 時間の会議を 2 時間トレースし、それをチェックするわけですよね。</p>
事 務 局	<p>そうです。</p>
委 員 長	<p>何が要点であったのかとか、そういう議論が本当はすごく重要であるため、そこに時間を割くように、会議の仕方や設営の方法を変えていくということ意識的にやっていくのであろうと思います。</p> <p>半日かかる作業が、実は手をかけずにゼロになる、もしくはゼロにはならないけど、議事録読み込む時間がより積極的に取れるようになるというように、変わっていくのではないかと想像しますので、ぜひこの機会に、積極的に変えて</p>

	<p>いってもらいたいなと思います。おそらく企業の方が、PDCA サイクルを回すというのを日々やられているでしょうから、そのときの課題設定や、議事の進め方を参考にされることをおすすめしたいなと思います。</p> <p>他にご意見はございますか。</p>
<p>委 員</p>	<p>まず1点目ですが、資料1の8ページ目のところで、悪い例として、「満足度が上がっている」というのが非常に気になりました。近年、このような間接評価の指標は必ずしも全て悪いというわけではなくて、例えば最終ゴールとしてこういうものを設定するのは大事なことであると思っています。ただ、このスライドの中にも書かれている通り、副次的な目標としてその要因を探るような客観的な指標もないと、検証することが難しいというところを確認しておくことが大事だと思います。</p> <p>2点目ですが、指標そのものの改定に関することがあまり書かれてないような気がしました。もちろん、指標が、本日の議論の中にあるように設定して終了ではなくて、それがどのようにこの日進市の地域作りにプラスになるのかということまで書ける必要があって、実行の過程で必ずしも適当でないというふうな判断になったときには必要に応じて指標そのものの見直しするという部分にもう少し立ち入ってもいいのではないかと考えたとともに、ただ朝令暮改でもまずいのでやっぱり一定の継続性っていうのはやっぱりないと逆に検証困難になってしまうこともあるので、そこに気をつける必要があると思いました。</p> <p>3点目ですけれども、先ほど私質問させていただいた、「直接性」という文言ですが、「直接関係性」にした方が私は理解しやすいです。</p> <p>最後4点目ですけれども、先ほどの議論にある、組織文化があるのかということですが、どのように日進市の中の日常に落とし込んでいくのかというところで、私の個人的な考えとして聞いていただければと思います。まず、上司である部課長クラスが、全体像を理解する必要があると思っています。同時に、係長クラスなどが現場に落とし込めるように、部課長クラスがその係長クラスとの日々の対話の中で意識付けを行う。だから係長の方は多分、現場のその目の前の仕事で一杯一杯になっているところで、例えばその大きな目標からすると日進市こういうふうな部分をだけでもこういった点、そのゴールっていう観点として「どう思う？」みたいな問いかけを行うだけで、係長の日常の中に溶け込んでいくのではないかというふうに思います。会議の場で、そのための時間を作るとやらされ感が大きくなるような感じがするので逆にあまり効果が望めなくなる心配をしました。こういうふうにすると、日常の中にその都度その指標を読むっていうものが追加されてできていくということが、先ほど他の委員も話されたよう腹に落とすというところに繋がっていくのではないかと私は思いながら聞いておりました。最後の方はちょっと個人的な部分であります。</p>

委員長	<p>ありがとうございます。いくつかご指摘いただきました。おそらく最も重要なのが指標の改定というものの考え方と、タイミングなのだろうと思います。</p> <p>推測ですが、従来文字として総合計画とされていると長期の流れという中で明文化されていく、ということがあります。その結果が7年から10年以降を見据えてのことなのだろうと思いますが、書いたものは先例主義で変えないというような文化が根付いてしまっているのであれば、それをどう変えていくのかといったことがあると思います。そこら辺の考え方について、もう少し事務局の方から整理と同時に現在の考え方をして教えていただければと思います。</p>
事務局	<p>今の委員長の話もありましたとおり、指標の見直しについて、9頁と10頁のスライドのところ、簡単に書いておりますのでこちらをもう少し工夫して、指標の見直しをより強く強調するように変えていきたいと思っております。</p>
委員	<p>私が申しあげたかったのは、この手の資料を配られると、最後のまとめとKPIのチェックリストを多分簡易なチェックリストとして各課で使われると思うので、ここの中のどこかに書いてあるといいという提案です。他に、ご提案ご意見がありましたら、お願いします。</p>
事務局	<p>行政の文化的な話をさせていただくと、どうしても前例踏襲主義で、一度決めたことは変えられないということが、根付いていると思います。ただ、必ずしも何でも一度決めたから変えないということではなく、適宜それを変えていく必要があるという思いはあります。ただ、職員ごとにかなり濃淡があることが事実なので、そのあたりはそういう文化を、必要に応じて変えていくという意識を根付かせていく必要があると思います。</p> <p>よく言われる行政の無謬性というものについて、それが払拭できるのかと言われると、経験上なかなか難しいお話であると思っておりますが、それをよしと思っているわけではございません。今回のような会議で皆さんのご意見をいただいてそれをどう落とし込んで、少しでもそれを変えていけるような、浸透させていくための切り口として、色々な仕組みに落とし込んでいくためのご意見をいただいて、この資料について仕上げしていきたいなと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。</p>
委員	<p>この戦略の策定作業というのがあったと思うのですが、その時には、先ほど9枚目のスライドのところで見直しという言葉が出てくるとは想像できなかったもので、この戦略の策定と推進委員の方が変わってから、今回企画政策課の皆さんもずいぶん大きく考え方が新しい時代に即してきたものになってきていると、私は思っています。このままいくと、どんどん大きく変わっていくような感じがしています。今回の資料は、とても良い資料で、本当に市役所からこの資料が出てくるとはあまり思わなかったというぐらい驚きました。</p>
委員	<p>私も同じ意見ですよ。前のときに本当に大丈夫かと思ったのですが、皆さんの努力によって、かなり変わってきたと思います。</p>

	<p>だから、プランニング書がきちんこのように方向性を示せば、多分 5 年後 10 年後変わると思いますから、ただ批判をしているわけではなく、今までやってこられたことに対して、僕は拍手を送りたい。ただ、その努力を止めることなくやっていただきたいというのが、一市民として率直な希望ですので、よろしくをお願いします。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。皆様の大変心強い応援、事務局のご努力に対して本当に前向きなお言葉をいただいたと思います。</p> <p>それでは資料 4 について、基本目標 3「雇用を支援、にぎわい・活力が生み出されるまちを創る」というところ、施策 3-1「市内の商工業の活性化と多様な連携の推進」といったところについての質問、特に KPI についての考え方の話にしたいと思います。先ほどと同じようにまずご質問として、そのあとにご意見、ご提案といった形でいきたいと思います。</p> <p>まず、ご質問ございますか。</p>
委員	<p>農地利用を含めて、雇用創出など、非常にいい施策を展開されようとしているなと思います。先月か今月の広報にも、農地利用に対してその人材活用、非常にいい前向きな広報活動をされている点では非常に大きく変わりつつあるというのが率直な印象です。ただその中で、道の駅も含めて地産地消という観点で、サービス提供、その中でやっぱり農産物っていうのが一つのキーワードになるだろうと思います。</p> <p>ただその中で、日進市で生活してよくわからないのは、農地面積の割合、例えば、田や畑からその他の果樹等、そのあたりの割合がどうなのか。確かに、雇用創出とかの施策はいいのですが、一番気になっているのは、日進市の場合北と南に丘陵地があって、天白川が流れて、しかも氾濫川なので田んぼしかできないような土壌の中で、どのように地産地消の対象となるサービスを提供できるような農産物を持つためには、やはり土壌改良じゃないかと感じています。大消費地である名古屋市を構えて、お米で商売できるわけではないと思うのです。その中で、人をいろいろと引っ張ってきて起業させるときに、肝心要の土地をどうするかというのが、一市民としては心配なのです。今の農地面積の割合も含めて教えてもらいたいというのが私の意見です。</p>
委員長	<p>事務局でカバーできないところは委員の方からもカバーしていただくほうがいいかなと思います。</p>
事務局	<p>農地の多くは、田であると記憶しておりますが、お調べして回答させていただきます。申し訳ございません。</p>
委員	<p>農地のほとんどは田んぼですね。</p> <p>それを、実際に畑に転用する場合、新たな土壌を入れないと転用できません。すぐ水が湧き出て、畑と耕そうとしても、作物が育たないという問題があります。その中で、日進市として、大消費地である名古屋を構えて、どのような展開をされるかっていうところが、基本目標のところにもそのような項</p>

	<p>目が出てこないものですから、肝心のどこで人たちが働いて、例えば作物を作るのか、それを道の駅で売ろうとするのか、そのストーリーが見えません。</p> <p>道の駅の議論になるのですが、サービス提供、その道路情報もサービスでいいと思いますが、その中において、地場で何が作られて、売られているか、「日進市すごいですね。」というところが読み切れないです。</p> <p>その中で、一生懸命道の駅で売るためにワインとかコーヒーとかをやってもそんなに多くの量を確保できるわけではないと思いますし、そのあたりのストーリー性がなくて、本来道の駅として関係ないような防災キッチンしますよとか、本来の道の駅の定義として、休憩とサービスと他市からの人たちの交流も含めた地域交流というものがあって、その三つが抜けて、関係ない防災拠点にしますよとか介護拠点にしますよとか、それは本来の道の駅から外れているわけです。</p> <p>だから僕たちは道の駅を賛成したいと思っても、肝心の地産地消であるべき農産物が何なのか、そのあたりが抜けているのではないかなということが率直な意見です。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。今日は戦略まで検討する時間はないと思いますけれども、今のご議論を今回の趣旨に合わせると、数値目標の基本的な設計思想と設計の仕方自体に時代にそぐわない課題が生じているのではないだろうかという指摘なのだろうというふうに思います。</p>
<p>委員</p>	<p>農地利用のところで、少しだけ現状をお伝えさせていただきたいと思います。</p> <p>本市は先ほどもお話がありました通り水稻がメインです。その担い手である農家さんは、高齢化しています。また、そこのご子息が、農業を継ぐ、兼業なりするという方も少なくなってきた現状がございます。よって、担い手については農業法人に利用権設定をされる方の割合が毎年多くなってきております。この資料を見させていただいたときに、計画策定のときには、おそらくこれでいいと思いますが、先ほども出ておりましたが農業におきましても取り巻く環境は本当に大きく変わってきています。一番わかりやすいのがウクライナの情勢、またコロナの関係です。肥料が日本にはほとんどありません。海外から輸入しています。それも高い値段になっている。これ日進市さんの方で実は販売農家に対して国県もやっていますが、日進市は簡略化した非常に農家さんが手続きをしやすような手法で、助けていただいています。先ほども、水稻から高収益作物にという話もございましたが、これは元々日進市の農耕地というのが水田用に基盤整備されていますので、単純にこれを畑作になると、ハードルがあるのかなというふうに思いますので、時代に合った見直しということはしていく必要があるのかなと思いますし、課題をどう捉え目標を設定して、その具体策をどう捉えていくのかということも KPI と合わせて見直しをしていく必要があると思います。今回のこの資料を見せて</p>

	<p>いただいたときに、農業産出額を目標として6億6000万円っていうのを挙げていただいております。生産量かけることの単価で売り上げが出てまいりますが、この価格対策のところは日進市の方で学校給食がありますが、こういったことを織り込んでいただいて、これを具体的なKPIとして設定されると、非常にわかりやすくてリンクしてきます。申し訳ないのですが、ここで農業生産額3%増加という目標設定をされていますが、利用権設定は担い手が変わるだけであって、金額が変わるといのはあまり難しいのかなというところがございますので、時代ごとで少し見直されるといいのかなと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。</p> <p>資料1・2で合意いただいておりますので、どういう方向に変えていくのか。庁内でいかなる議論を進めていくのかということについて委員の皆様も安心してご理解いただいておりますので本当に率直なご意見かつ、現状をどう見直すかというところの御指摘であったと思います。</p> <p>直接担うKPIの議論だけではとどまらないご意見が多くあったかと思えます。他のご意見などございますか。</p>
委員	<p>商工会も農協さんと同じで、作り手が高齢化しています。商工会では、今1150~60ぐらい会員さんがおられますが、2ヶ月に1回ほど理事会がありまして、地元の後継者がいない、現状では跡継ぎがいないという方、現状では生活していくことができないという方が多い。そのため、息子さんたちは外に働きに行くというような現状が全国的にもある。しかし、日進市では人口が増えてきて開発も進んでビジネスチャンスがあるものですから、いろんな方が入ってくる。この間でもそうですけど、私ども経営発達支援計画とかそういうものを年に一度査定しながら、今後データを取り次にどうしていったらいいかっていうのを5年計画で、デジタル化してしっかりやると、私どもの今の商圈がどういう状況なのかということも含め、6次総合計画に組み込むなど、いろんな楽しみがあるのかなと思います。ただし、将来すごく厳しいということがありまして、コロナで一生懸命頑張って何とか乗り越えましたが、実際にはほとんど資金繰りが苦しく、何とか返済しないといけない、会社が現状は今100%に戻ってない状態なのにといいところと切実に感じます。そういった意味では、こういったアイデアを出したり、農協と消防が一体化しながら一つの拠点で、先ほど他の委員が言われたとおり、いろいろなところで連携し合いながら、前向きに考えていくべきだというふうに思っています。評価的には、素晴らしいと僕らも納得しておりますし、一つずつ消し込んでもらって具体的に早くデータを見てチェックして、次のステップということなのかなと思います。僕は一つの団体に役員をやらせてもらって、本当に災害が起こるとい前提で、何億というお金をかけてシステムの開発をしています。災害時に、早くその患者が処理できて、能力的にも手書きではないというものでした。システムの進化は本当に早いなというように感じております。だから、今おっしゃったところは、</p>

	<p>大変ですけども他の民間の業界では今から準備して、国の風向に対し準備ができるような状況であるということを見ますと、僕らは本当に早く行かないと大丈夫かなという状況ですので、皆さんが協力し合って、アイデアを出して、この会が良くなって、第7次のまた先で、将来には子どもたちが背負っていくことになると思います。後は消防関係で、震災発生が今日なのか30年先なのかという状況において、いち早く体制を整えて自分たちが生身の体で復興に向けてみんなで頑張るよってというような、繋がりを持ったってことをテーマに入れていただいておりますので、ある意味では全体的には強いまちにしてもらいたいのかなと期待しております。商工会も頑張ります。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。この KPI を再設定再設計するにあたって、その当事者に当たるような専門家の方々であつたりも踏まえながらしっかりと検討した上で KPI の再設計を行っていく、それに併せて前提となるような課題の再認識であつたりというのも同時に行うプロセスが重要なのだというご指摘として理解した方がよいと思います。</p> <p>残念ながら今の議論を聞いておりますと今日この十分な情報がない中で KPI を再設計していくことは、より適切な改善と結びつけるのは、今日の時間だけでは少し情報量が不足しているのではないかなと思いますので一旦ここで議論は締めさせていただきますと思います。それでは資料 6 の「日進市企業版ふるさと納税地方創生基金条例の制定」について、事務局お願いします。</p>
事務局	(資料 6 に基づき、事務局から説明)
委員長	確認ですが、この委員会というのは「ふるさと納税地方創生基金条例」の中でどういう役割を果たしていくことになるのでしょうか。
事務局	本委員会において、進捗を管理していただくこととなります。毎年 8 月頃に、企業版ふるさと納税の実績報告をさせていただいておりますが、その事業に関するご意見等がございましたら、それを反映させるという形で進めてまいりたいと思っております。
委員長	ありがとうございます。それは、基金の運用先が適切かどうか、あるいは基金をもっとこういった方向に見直していったらいいのではないかなというような議論を、この場でも提案できるという理解でよろしいですか。
事務局	そうですね。ご提案いただければ担当課である財務政策課に意見を提出させていただきます。
事務局	ありがとうございます。私からの補足の質問は以上ですが皆様の方から質問や報告に対して考え方というのがあればいただけたいと思います。
事務局	<p>少し補足説明をさせていただきたいと思います。基金についてはどんな事業でも充てられるというわけではなく、内閣府にどういった事業に充てられるのかというような事業計画と、この条例案を提示して承認を得ているものでございます。</p> <p>今回につきましては、公共交通対策事業のうち、主に自動運転バスのランニ</p>

	<p>ングコストや車両購入費等に充てるような内容になっております。今後、本委員会の中でこういった事業に充てればいいのかないかなというようにご意見は、財務政策課の方にお話をしますが、市の方でその事業を決定することができない基金の使い方になります。以上、補足でした。</p>
委員長	<p>今の報告に対しては皆さんよろしいでしょうか。 それでは、進行を事務局の方にお返しいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。ご意見をいただき、今年より来年、来年より再来年、確実に良くなるように取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p> <p>第2期日進市人口ビジョン・まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証も今後とも進めてまいりたいと思います。</p> <p>それでは以上をもちまして令和4年度第3回次総合振興推進委員会を閉会いたします。本日はありがとうございました。</p>
	3 閉会